

ある日の育児日記から

佐藤 和代

(45)



保育園の、有のクラスメートが、亡くなりました。突然死、ということでした。金曜日に元気な姿を見たのに、月曜の朝、園の玄関に訃報がはり出されていたのです。

あまりの突然さに混乱して、二度三度と読み直していたとき、職員室で泣いている先生の姿が目にはいりました。一歳児クラスの子どもたちは、何もわからず、いつものように先生の笑顔を求めてくるはず。あの先生は、今日一日を、どうやってすごすのでしょうか…。

小さい子の命とは、何とほかないのか。私も一日

中そればかり考えて、仕事になりませんでした。その夜は夜中に何度も有の寝息を確かめました。あ、生きている。大丈夫。

そして二三日、私は妙にやさしい母親。だっ
て、生きていると思うだけで、涙が出るほどいと
しいんだもの。叱ったりなんかできない。

でも、お通夜の手伝いに行つて、夜遅く帰宅した日。起きて待っていた妻と有は、なかなか寝ようとせず、おみやげのお菓子をポリポリ。12時近



くなるとさすがに私もあ
せてきて「いいかげんに
しなさいっ」とどなって
しまいました。生きてるだ
けで嬉しい、という想いは
忘れたくないけれど、日常
は日常、でしょうか。反省。